

岐阜の「食」と「農」を守りたい



9月25日(金)に西美濃農業協同組合より、子どもに向けて食と農の大切さを伝える学習雑誌「ちゃぐりん」を寄贈していただきました。JAでは、子どもたちと一緒にこれからの食と農について考え、未来へと繋いでいくため、教育機関と連携し、地域の実情に応じた食と農に関する教育活動に取り組んでいます。

同組合の玉井寛之代表理事組合長は「岐阜の食と農を守りたいという思いを持ち、寄贈しました。地域の現状と命を育む農業について、もっと興味を持ち、知って欲しいです」と話しました。今回いただいた雑誌は、町内の小学3年生の児童に配布し、私たちの暮らしに欠かすことのできない農業について学ぶ教材として活用します。

地域に寄り添う“地元の元気プロジェクト”



9月30日(水)に明治安田生命保険相互会社岐阜支社(岐阜市)より「私の地元応援募金」として、50万1500円を寄附いただきました。町と同社は令和3年6月に「健康増進に関する連携協定」と「高齢者等の見守り活動に関する協定」を締結し、地域住民の暮らしや健康を豊かにするために連携を図っています。

同社の山根康平大垣西営業所長は「当社は自治体と協力し、地域に根差した“地域のためにできること”を継続して取り組んでいます。今後も健康や福祉に関する情報発信を行うとともに、活動をさらに広げていきたいです」と話しました。いただいた寄附は、地域住民の健康増進などの社会福祉事業を推進するために活用します。

まちづくりの現状とこれから



10月8日(木)に町中央公民館 中ホールにおいて、養老町 町政報告会を開催しました。町の最上位計画である養老町まちづくりビジョンに掲げるまちの将来像「人があつまり 楽しく生きがいのあるまち」の実現に向け、町政の現状および今後の展望について、川地憲元町長の報告により参加者へ共有されるとともに、地域と結束を密にしたまちづくりの重要性について再確認する機会となりました。

また、「人やモノが集まる岐阜県を目指してー10年後の未来に向けたまちづくりー」と題し、江崎禎英知事による講演も行われ、日本が直面する課題への解決策を岐阜県から発信していくためのまちづくり構想について熱弁が振られました。

みんなで支える あたたかな福祉のまち



9月26日(土)に町中央公民館 中ホールにて、第26回養老町社会福祉大会(町社会福祉協議会主催)が開催されました。多年にわたり社会福祉の発展に寄与した功労者を表彰するとともに、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会を築くために不可欠な“地域の中で支え合う関係を育むこと”の重要性について考えました。

また、日本赤十字社岐阜県支部の松浦正佳氏による「災害への備え～令和6年能登半島地震の対応から学ぶ～」をテーマとした記念講演も開催され、参加者は松浦氏の話す「日本赤十字社のこれまでの災害対応から学ぶ災害への備え」について、メモを取りながら聴いていました。